

めぐろ歴史資料館・文化財だより

第21号



現在めぐろ歴史資料館がある建物が、区立小学校の校舎建て替えに伴い、仮校舎として使用されることになりました。そのため当館は移転することになり、一時休館いたします。

移転リニューアルしてまた皆様をお迎えできるよう準備を進めてまいります。なお一時休館中も区内施設で企画展等を開催するとともに、目黒区の歴史と文化についてのお問い合わせにもご対応いたします。

〈目次〉

- めぐろ歴史資料館の休館と今後の事業展開 ……2
- 「昔のくらしと道具展」と来年度の対応 ……2
- 新指定 東京都指定名勝 旧前田庭園（駒場公園）3
- めぐろ歴史資料館のこれまでの企画展 ……4
- 『空襲記 銃後の目黒と疎開した我が子の記録』6
- 古民家紹介 ……8

めぐろ歴史資料館の休館と今後の事業展開

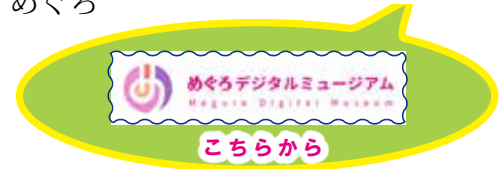
めぐろ歴史資料館が所在しているめぐろ学校サポートセンター施設については、今後建て替えが必要となる区立学校の仮校舎として活用することになり、移転準備のため令和8年1月25日をもって休館しました。

新たな移転先は未定ですが、休館中においても郷土の歴史及び収蔵資料に関する問い合わせなどについては引き続き行っていきます。

令和8年度より名称を「郷土資料室」に変更しますが、区内施設を利用した出張展示の実施やデジタル技術を活用した「めぐろデジタルミュージアム」の充実を図るとともに、現在、年中行事の再現や体験学習事業を行っている目黒区古民家をさらに活用した事業の実施など、様々な展示方法や情報発信による啓発・普及に努めていきます。

事業の実施などの情報については目黒区公式ウェブサイトや「めぐろ区報」に掲載し、お知らせします。

今後とも何卒お願い申し上げます。



「昔のくらしと道具展」と来年度の対応

めぐろ歴史資料館では、小学校第3学年の社会科見学の時期に合わせ、冬の企画展を開催しました。この企画展は目黒区の郷土学習に活用していただく事を目的としており、開館初年度より例年実施してきました。

今回の企画展では、当館移転前の最後の企画展となることから、開館初年度の「昔のくらしと道具展」に立ち返り企画しました。利便性の向上した現代と比較し、かつて目黒で使用されてきた道具がどのようなものであったか、また明治から高度経済成長期にかけての道具変化と、それについて企画、展示をしました。更に資料館の職員が実物の資料を見せながら、道具の使い方や変化を説明し、電気・ガス・水道がない時代のくらしについての説明を常設展と合わせて実施いたしました。常設展のタケノコの展示コーナーでの解説では、昭和初期まで目黒区のほとんどが農村地帯であったことを初めて知って驚いた表情を見せた生徒が多くいました。

令和7年度の小学校団体見学については、担当の先生を対象に事前説明会を開催し解説内容の確認をしました。今年度は、当館企画展は9校、古民家の見学4校の合計13校、1,053名の生徒に参加していただきました。なお、古民家につきましては、令和8年度以降も現在と同様に運営します。企画展につきましては、区内施設を利用した開催を予定しています。



新指定 東京都指定名勝

旧前田庭園（駒場公園）

令和7(2025)年3月26日付けで、旧前田庭園（駒場公園）が東京都指定名勝に指定されました。名勝とは文化財の種類のひとつで、風致景観の優秀なもので古くから名所と知られているものまたは、芸術的もしくは学術的価値が高いものが指定されます。目黒区内での名勝指定は今回が初であり、東京都指定文化財は18件になりました。

旧前田庭園は、旧加賀藩主の系譜である前田侯爵家の本邸が、文京区本郷から目黒区駒場へ移転した際に造営された庭園で、昭和4(1929)年の洋館、同5年の和館の竣工に続いて、同6年に完成しました。なお、洋館や和館等の8棟は、平成25(2013)年に重要文化財（建造物）「旧前田家本邸」として指定されています。

前田家本邸では、主な建物である洋館と和館の周囲にそれぞれの趣に合わせた庭園が一体的に設計されました。洋館南面には芝生の洋風庭園が広がり、和館の南には池と流れを主とした和風庭園があります。洋風庭園の設計は近代日本を代表する造園学者の原^{ひろし}によるもので、和風庭園は華道家であり上流階級の庭園も手掛けていた西川^{いっそうてい}一草亭による設計です。

前田家本邸は完成から今日に至るまで、前田家居住期、連合国軍接收期、駒場公園期という用途の変遷がありながらも、庭園は造園当時の地割を良好に残し、現存する洋館・和館等の建造物とともに昭和初期における華族邸宅の全体像を伝える貴重な遺構です。

<施設案内>

所在地：目黒区駒場四丁目3番55号（目黒区立駒場公園）

指定面積：37,316.42㎡

交通：京王井の頭線「駒場東大前」駅（西口）下車徒歩10分

小田急線「東北沢」駅または「代々木上原」駅下車15分

	公開日※	公開時間	見学料
庭園（駒場公園）	火曜～日曜・祝日	9:00～16:30	無料
和館	火曜～日曜・祝日	9:00～16:00	
洋館	水曜～日曜・祝日	9:00～16:00	

※月曜が祝日の場合は開園（館）し、翌日は休園（館）。

※年末年始は休園（館）。

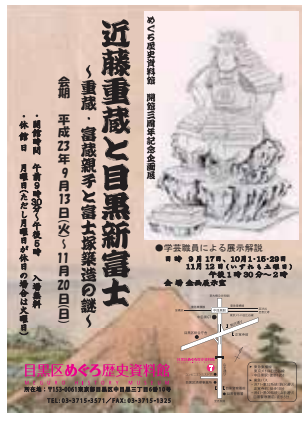


洋風庭園



和風庭園

これまでの主な特別展・企画展



目黒区めぐろ歴史資料館は、平成20(2008)年9月20日に開館して以来、年に2～3回の企画展を開催しました。

春から秋の企画展では、当館で働く学芸員が目黒の歴史や文化について調査・研究を行い、その結果を広く公開するために開催され、その内容も多岐にわたります。

平成23(2011)年度には、めぐろ歴史資料館の目玉展示だった胎内洞穴で有名な目黒新富士を築造した近藤重蔵とその子・富蔵について取り上げた「近藤重蔵と目黒新富士～重蔵・富蔵親子と新富士築造の謎～」を、令和4(2022)年度には、目黒区に縁ある工芸に携わってきた職人たちを取り上げ、その作品を数多く発表した「目黒の名工―千代鶴是秀×小宮又兵衛×高山一之―」を開催しました。

他にも、江戸時代の目黒で盛んに行われていた鷹狩やタケノコ栽培を紹介する展示や、目黒区が区政となった節目の年度には目黒区の歴史について紹介する展示、終戦の節目の年度には戦争関連の展示を行いました。

冬の企画展は、小学校第3学年の学習に合わせて「昔のくらしと道具展」と題し、毎年特集するテーマと資料を変えて、昔の道具の使い方やその道具を使っていた当時の暮らしの様子について紹介しました。

各企画展では、学芸員による企画展の展示のより詳細な解説を行うイベントを開催しました。解説パネルには載せきれなかった研究の成果を伝えるだけでなく、解説イベントに参加した来館者からは、質問を通して交流を行ったことで、より展示に興味を持ったという感想をいただきました。

特に冬の企画展「昔のくらしと道具展」では、実際に展示されている足踏みミシンや手回し蓄音機を動かしたり、氷式冷蔵庫に氷を入れてどれくらい冷えるのか実験する体験イベントを行いました。参加者は、初めて



めぐろ歴史資料館



みる資料とそれに触れることに緊張しつつも、最後には昔と現在の道具との違いを楽しく学べたと、大人から子どもまで幅広い世代に好評でした。

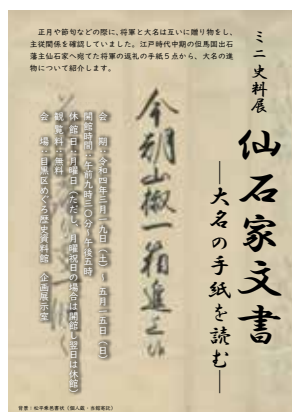
これらの企画展を開催するにあたり、担当学芸員が、展示する資料の選定、会場設営、解説執筆・ポスターチラシのデザイン、ライティングなどを作り上げています。

めぐろ歴史資料館は一時休館となりますが、その期間中も学芸員たちは調査と研究を続け、開催場所や手法を変えて企画展を開催できるように準備をします。新たな資料館と開催される企画展をどうか楽しみにお待ちしております！

企画展名一覧

4 ページ左上から時計回りに

- 「ある旗本がみた幕末—武島家文書にみる旗本・御家人の世界—」(平成 21 年度)
- 「近藤重蔵と目黒新富士—重蔵・富蔵親子と富士塚築造の謎—」(平成 23 年度)
- 「目黒区制施行 80 周年記念 1932 目黒区誕生—和を以て貴しとなす—」(平成 24 年度)
- 「目黒の地図展」(平成 26 年度)
- 「暮らしを彩る嗜好品」(平成 28 年度)
- 「鷹狩と江戸時代の目黒」(平成 29 年度)
- 「目黒の富士塚・富士講資料」(令和元年度)
- 「昔のくらしと道具展 くらしのうつりかわり」(令和元年度)
- 「郷土玩具へのまなざし〜菱田コレクション展〜」(令和 2 年度)
- 「中世武士目黒氏の軌跡—列島を駆け抜けた武士たち—」(令和 3 年度)
- 「昔のくらしと道具展 つくるといふこと」(令和 3 年度)
- 「ミニ史料展 仙石家文書—大名の手紙を読む—」(令和 3 年度)
- 「目黒区区制施行 90 周年展 目黒 90 年の面影」(令和 4 年度)
- 「目黒の名工 千代鶴是秀×小宮又兵衛×高山一之」(令和 4 年度)
- 「昔のくらしと道具展 ひやす・あたためる」(令和 4 年度)
- 「開館 15 周年記念 新収藏品展」(令和 5 年度)
- 「目黒の教育 150 周年記念展 集いし学び舎—過去から現在へ—」(令和 5 年度)
- 「昔のくらしと道具展 伝える・のこす」(令和 5 年度)
- 「目黒の戦後 地域、そして学びのあゆみ / 新発掘速報展」(令和 6 年度)
- 「昔のくらしと道具展 食にまつわる道具」(令和 6 年度)



『空襲記 銃後の目黒と疎開した我が子の記録』刊行

刊行までの経緯

目黒区民の内藤政雄氏（故人）が執筆した『空襲記—末子、政弘に与ふる手紙に寄せて—』（以下『空襲記』）が当館収蔵庫から令和5年10月に発見されました。詳細な資料調査の結果、長編の戦争体験記録で、当時の目黒区内外や学童疎開の状況などが詳細に書きつづられていました。

自発的に民間人が残した戦争体験記録としては他に類を見ないものであるため、資料館では戦後80年となる今年、教育機関やご家庭で平和教育資料としてご活用していただくことを目的に、『空襲記』及びその他関連資料の翻刻、政雄氏ご家族へのインタビュー、資料解説・論考をまとめ、『空襲記—銃後の目黒と疎開した我が子の記録—』を令和7年7月19日に刊行しました。



内藤政雄氏（昭和61年撮影）

資料内容

『空襲記』は原稿用紙160枚に及ぶ長編の記録となっており、内容としてはアジア・太平洋戦争後半の状況や、目黒区や日本国内の銃後の生活状況、学童集団疎開に我が子を送り出す前の親の心境などが詳細に記されていました。一民間人が残した戦争体験の記録としては特異なものであり、政雄氏の文章力の高さから、読み物としても引き込まれるものとなっていました。

また、『空襲記』の関連資料で、内藤政雄氏の御子息である政弘氏（存命）の疎開先に届けられた手紙類を集成した『学童疎開中 吾家からの便り“田道小学校三年夏から四年秋にかけて”』については、当時の銃後の状況や疎開児童を想うご家族の状況などが案じられる内容となっていました。



『空襲記』表紙



『学童疎開中 吾家からの便り

“田道小学校三年夏から四年秋にかけて”表紙

反響

当該書籍について、当館と目黒区総合庁舎内の広報広聴課で販売したところ、目黒区のみならず東京都外の遠方から購入したいという連絡が多く寄せられ、今までにない反響がありました。特に読売新聞（8月8日東京版朝刊）・東京新聞（8月21日）による書籍刊行についての記事が掲載されて以降、特集記事を見て買いに来たという方が多くいらっしゃいました。

また、その関連で目黒区内の方々から、従軍関係の写真や勲章といった戦時中の資料の寄贈依頼が寄せられました。これらのことから、今回の刊行については目黒区のみならず、全国的な反響が大きかったと思われます。

加えて7月19日～8月31日の期間、『空襲記―銃後の目黒と疎開した我が子の記録―』刊行にあわせて、ミニ企画展「『空襲記』からみる80年前の日々」を開催し、『空襲記』の原本など関連資料を展示しました。この企画展も、「自身や親族の戦争体験を回想することができた」、「自分たちの住んでいるところが80年前は焼け野原だったことを知ることができた」、など老若男女様々など感想があり、こちらも大きな反響がありました。この他、団体向けの平和教育に関する講演会依頼などが当館へ寄せられました。



刊行物『空襲記―銃後の目黒と疎開した我が子の記録』表紙。ミニ展入口パネルにも活用。



ミニ企画展の様子

これからの戦争証言について

戦後80年が経過し、往時を知る方々が減少していることから、直接的な戦争体験を「語り継ぐ」機会も減ってゆく事態に直面しつつあります。こうした状況で、今までの戦争体験談や戦争関連資料を集積し、展示や書籍刊行など様々な方法で広く次世代へ継承してゆくことが、今後の平和教育に対する博物館・資料館に求められている点だと考えられます。

こうした点において、『空襲記―銃後の目黒と疎開した我が子の記録―』の刊行は、今後の戦争体験継承と平和教育の推進という観点から、非常に大きな意味があったと思われます。

古民家紹介

目黒区古民家（旧栗山家主屋）は、栗山重治氏の旧宅で昭和54年（1979）3月に目黒区指定有形文化財となりました。栗山家は旧衾村の村方三役の「年寄」の家柄で、門構えが厳しく制約された江戸時代において「長屋門」を配することを許されていました。栗山家長屋門も同じく目黒区指定有形文化財となっており、長屋門は解体・保存されています。

指定理由は「栗山家の身分格式を象徴するもので、江戸時代中期に、さかのぼり得る建築とみられ、すでに都市化された目黒区にあって往時の面影を残す、きわめて貴重な建造物である」（抜粋）とされました。同年7月に栗山氏が目黒区に寄贈し、解体された後、昭和59年（1984）3月に「すずめのお宿緑地公園」内に移築復元されました。

構造形式は、桁行7.5間、梁間5間、広間型平面・寄棟造・平入で、現在の屋根は銅板葺ですが、もとは茅葺でした。



古民家 年間行事予定

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
4月上旬～5月上旬 端午の節句			7月上旬 七夕飾り			10月中旬 お月見		12月中旬 すず払い		2月上旬～3月上旬 雛人形飾り	

諸般の事情により、日程・内容等は変更になる場合があります。詳細は『めぐろ区報』または目黒区のホームページでご確認ください。

古民家（旧栗山家主屋）

入館料 無料

開館時間 9:30～15:30

休館日 月・火曜日

（ただし祝日は公開。両日とも祝日の場合は翌日が休館日）

12/28～1/4

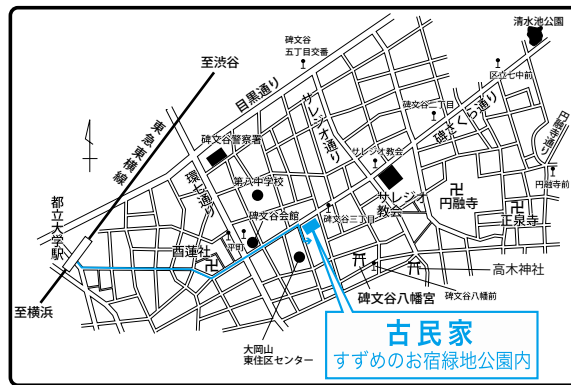
電話番号 03-3714-8882

所在地 目黒区碑文谷3-11-22 すずめのお宿緑地公園内

【電車】東急東横線「都立大学駅」から徒歩約10分

【バス】東急バス黒10系統「碑文谷三丁目」から徒歩約1分

森91系統「平町」から徒歩約3分



郷土資料室（目黒区教育委員会事務局生涯学習課）

係名が変わります！

目黒区の歴史・文化に関するレファレンス・資料寄贈のお問い合わせ・目黒区古民家管理など

電話番号 03-3715-3571 月～金曜日 8:30～17:00（ただし、祝日及び12/29～1/3を除く）

目黒区総合庁舎5階

文化財係（目黒区教育委員会事務局生涯学習課）

文化財の保護・保存・活用・普及・埋蔵文化財に関する業務

電話番号 03-5722-9320

月～金曜日 8:30～17:00

（ただし、祝日及び12/29～1/3を除く）

めぐろ歴史資料館・文化財だより 第21号

令和8年3月発行

発行 目黒区教育委員会

編集 めぐろ歴史資料館

（目黒区教育委員会事務局生涯学習課）

印刷 有限会社ジンキッズ